傾城買四十八手

ヘ13
1963
26

26

序文

千年の家書に花ちるの。蔭廣き
たばのう
為度ハ。一ち乃まにけく。い糸をを
なげ
とつて投のはけぐ。軸も足ゞ
こと
手ものゝ。やゝ。翠の屋敷
てまれ
色つて。捨ら。れハせぬ。と。
まて
ぬき。

へ 3
1963
26

蔡木きりよりも。だ江山乃勇卿
ばでぶのはるぬるを長き
紙雑も宝乃義より悪ぶ。
のいを表むも理をきりぐ
仏法をもぶすも。まあるん
ぜしてなぶ。故乃牧

ぶをおして。真影をの
十八手よりよぶ。是をぶ
分ぶるもの乃愚國乎
授くと。我りるもるる雑
なるぶ。除たるせよ世一
冊既四十八手ぶん

乃伊勢屋

山東京傳述

寛政四壬子年

成就

文京

秋和ゝ軒

皆夫孤閣

森乃庵

慾界之
仙都
昇平之
樂國

傾城買四十八手　總目

○きつぽうとさとる
○ふるまい手
○こそばゆれ手
○おくゆかす手
○まくら乃手

傾城買四十八手

山東京傳著

○きつぽうとしたる　宿いりしたこと手ばかりつきぬ乃なれ中三ヶ初會

てうつてく下村のみきの香とうつきてうと付んがらよくあい
きをうの良のよこがれ繁い去のふゆゆし百ぬがくさの白ひかを
あぢよさをひちりめんのどうして紫赤白とに金糸と銀糸
であち孫とぬひつめくへりとちりー顔むくとふあち川が
浸みだらして扨わち　桐と扨わち　張千ヨロのひらこけとあわ
るれ手きを姿ちを紙とうまあてんのれ
みりちをくらうあく　さとちやア　あてんのれ　うんざー
ちてあさまれも
ちうひりむきなんざんをく　さんきいひ付さ

ヨとうそをそれてくれめくヨ　ムスコ　モウそふナイー
たヨ　トいふい床のとりやうをいろもとゑんてをちぐてさら
せて　ムスコ　ろと云ヨこれとゑりがまいーえ表ヨくむ
つごとのさうくぬやうにとのむつろひとんやのさやくたのも
てとさうるゑり　客ムスコ　ヶ年い十八ろうねひろくろとして男
もよくおまりにとさうぐといろふもよさおのむとこくこく
る風俗つれも一人あり床ゆさまんてみつぶとんのうくふえ
をりをさうさまくようさふなりうまあぶり　ヤ　まりまぐらし
のヤくいぐらのさるて伺ろ出て居るまく　ヤ　ろうふろうた
ろうく　上ゑとおとうんなんせんくく　ムスコ　アイ　トいろ
ちろり　ヤ　さんで床の　さを
ろりぬぐ　ヤ　ろのようをき　ぬーやァいろと乳ぐつまぐんん
ちヨ　ムスコ　なぜく　ヤ　だまんておいでなんとろ

らサ　ムスコ　ろうちやいの仙ンといろてよいりのら云
ろやせん　ヤ　うそをおつきなんーぬーやァ
いろそまがなろうーやるヨ　ムスコ　まとゆらい
二なおろさやざざりやせん　ヤ　おんらーいの
トつありそふよしさうあんろよーてつめろぐたたこ
ちそひ作ろ。出さちさんがーてふーまとたくく　ふろ
きさる　ヤ　出と入てきさそろりやよくいけてヨ　ふろ
アイ　ト出入を拍ヤくぐ　ヤうちをの　おさのーこざんとね
ろりにとろりより　ヤ　きさんとれ
どろざとなんざんとくちんともきさくん

せん（トちらーあつこりとふわどなくくふろ）出入のかくとあきあそうおがうおきてる
てめくゆびとどふーさ（ふろ）青よ中の町てたよ
ふうたらさんーさヨ（ヨ）それそやいそねくるら
よコレヨそれよこりてモウたやいらとムやと
くちあくヨトあどけるくちふろ（ふコ）ふうてある（ふろ）ふうむいてある
（ヨ）コレサちまてとちまんてのそてそうくて
モウやところやトムーかうがいとねさ（ふろ）アイそん
なうお体なくりイしートえ（ヨ）ひゆくしえうひ
みー翠へ徒がさうんて

コロリンピヤンと（ヨ）ちづのにしやヨトたえ
がんりようせうとこいかるぴんとちちのおうて
むきこのうやとうくぐとんてこれうーちぶんがぐのこ
えちちつけて
むきふやる（ふコ）ふうちやたとこんちうひサ（ヨ）
やあんなんせんくモシへぬーれ内いの花菊え
の客人のを不ク（ふコ）イへちづひやと（ヨ）ど
こざんとく（ふコ）神田の八丁堀サ（ヨ）うとお
つさりんーよくえぐうーなんとヨ（ふコ）行
でちまやと（ヨ）ちぶく気よかうえをいく

おきゝせなんしなおいらもあんせんとくぜぐ
つまんねへよ【ムスコ】いやむごともいゝじやァねへかてつ
とんとひのさ【客】かんぷく【ムスコ】おめへおてゝくろ
【客】そんならかしら字をいゝくおきゝせなん
し【ムスコ】かしら字へふのドさ【客】まちなんし
よふのドぶねコウトそんなら日本橋へ
【ムスコ】つらひながらちぐゝね【客】又書づくんぐてそんあらよ
かんてとせらく【ムスコ】いゝん一【客】書まつてくど

こゞのう ドゝんざして まぐろをとく【ムスコ】せんたりかんとう八日
日本橋の名所尾張町サ【客】ソレヲ大なんしよく
おてんしたらう モシへ日本橋へもかんのんさんを
とゝあゝてゝいさんをく【ムスコ】書まてことサ【客】大きさ
肉へおもとさんがござんせうね【ムスコ】ナア二ま
ざそんあのりのがなりのさ【客】そんならどこ
どの女もしもにおきよのをぐあんあんそぐらう
ね【ムスコ】肉ぐせうましくて出られねらうあうち

のやうなぞくいきてうのいねくのサきよねん
とりれまちのうりはつまぐあるて郎(ろう)一文(ぶん)
いきやたうちがるなだらーいそぐとともお
めくのいろとちろと出(える)くきうせナ 男 どふ
してそんかうげござんをとりのうこうちやを
年(ねん)までこのこの家(りやう)よりんしてはまらうぞん
しよいろをきさんてもこうちらがやうか
りのへざれもーてくきんせんりのと 女 よく

うこそ絵つくれうぞんたをきとつけやせう 男
わんざんをよ 女 そんあら家よりれきのが
あるざらう 男 人よりれるのいきをひサ 女
そんならこうちらよりなとざらうね 男
ぬーふく人とうわを行いはやんをめくとふこんのをを
ひねるて 女 ざらーなるね 男 モシへこうちや
さんさーつ移りひがござんをよ 女 どふ云糸
がひざ 男 こうちがわまて家ーもれきなんを

やうあさ　おあ〳〵今ゐれさのいねへといつ
さどや　ゆく〳〵　たてこひとりござんさそよ
うらふーいるすざあどそのんざん　でがる
コウどそのんざん　おすんさつてゆ　でんぶ
あやかーなるりんざのどきぐ　りんでござん
そよそれざれどうてらがやうかのざら
りうこをざりでおなんをめんね　りて
へねおめんのやうあろくーひかーやざりの

と　あいさたかさんとおかぶんなんー
　りんふサよんでさんなるなるらくる
れさ　うそや　きそどふーかさる
　おろうん　ちをてさるすサ　マアうそよ
もうをてうざんと　それがうそざ
りんのすサ　どれりんうそとうてうこむ
　モはあさいがんよちあんーと呈でメつける
のあたをうよきせる　うをきさいちう
とそをこ作まふ拵ち　今夜いでんぶそざさむい

ぢんざゲイ〜いってもよーろく（トあるはさまくい
よわどあどこたり百まで
京なれどぢろいたのちんうなり
よくお出なんーさねサアおえいんなんーか
[元]そんあら一ッぷくのめれ美茶とーやせう
トをり [多]たなどうけあんおあぐんなんせばいーね [元]
伝のさてぐよーれろぢサ [白]へんなせんかぎト
ヲ [元]コウおいーんうんちぐ茶ぐんざらかえ
いぐってんなせん [多]いんそ青ぢうんちと
ぢらーてお出なんそよ [白]伝のえんかこんちぐ
ありやかされかのさ [多]ちまんとこなんーふらら
しいトきせるでぶろちろーぬーぐお師しゆうさんざ
まねをして
うらくまぐあんなんそちづさ [元]コウ業さん
おめんかざアいまんくらちざアぢいぶんくいねんお
いらアモウおいとんざぜざいいちこんぐこるく
なんって一ッぷい呑とぐんと移るかこれどやア
傾城ぐちかぬんちぐぢ [多]ヨやあれろぢ義菊

さん弐おころーなんせびよふざんとい 一丈
ナニサあのけいいころちれ畠でちゑねゑ
さモウきやせん 図 かゑいそふそんかる
といひなんそかいろはけんそよ 二丈 きいて
もいくのさこういろちやアおろーらーいげこ
百六十よゑん日は里へ屋ゑりこまんて屋
ふにツゑ駕のたこぐでこびろうどれちん
ゑりげ彩へかゑうねゑと移つゑれねゑ男トをかー

ふのりげこそこをるの火むのひこへかちこ
とちゑーぞこりゑその上田のふ神りゑる 効 一尺 ソレ
火へげ扶ちんーさ 二丈 ホイ トけーしこぞりゑ効のこ人の えあれでおどろゑね魚で
トふすのぞうらソレ左りの目がいどくとさい
つアこふぞかころるぞうげ入て居るからろ
ちうをよふあやア傾城もマアむづうーい
のサ トうねげこんやゑうくされる 効 あこれてぞ
おこりとこゑーさていゑ まりこよ城
をふよりふーこて家のろふいけーこきつぞこへ 二丈 ゑく
ぞうはをけてーじやうぞんー ふいろのこん
ついこふーげ出くなんこさ考い中がれい

さりおいらんお休ト立 ハイ マアあそびかせ
か 三 いんまやでくぶ称めくなんてョとれよ
おらアいくがおめいちんとよくけらざア
ろうらうふよ 白ユ そよさちんともアイが
よふござりやと 男 うれーややうくやく モシへ
そふざく男ひなぐら
りらんとおそかーなんへなんるおうーあヤ
をめく花菊さんがおいうんなんをござらう 一九
をおいよ不もねへ高うさトいのヲヤぐんとうさん

をそでめ白川ざコリヤア 為ぐんよりるるりぐ
りへトあんごうれそがへよりてしてさひせんのやけ宮へやびとへ
中の月よ
とけいい チヤントセツまし 茶や男 ハイおむうひで
ござりまして

評 曰古のおいらんがたぐこれ出でむとこ
の都をこんの原氏尝れ巻の意味ありく
をぐゆくーはろーぬのぐぐんいまぐやり
をやぐんとうあくとこふぐりてんよれ

てもゐでだろう思ひて居るものなり又
だんとう如ぐが今青いあの客人よこそ
くいんて節句とおるのこなんーといひ
とくてもつい云そびをていそぐそよもま
ひだんとう如ぐい沢の呂にぬて居て始
終学耳立アくあれをるーにとつひて
いひ出さんーあきびよいふと言をとむい
成くなるべーもるーまあるーとれば

内徳のせいもつよくはあれ新造出ーれ頼
和と新も今れ乃ならん又今時のふむを
こいとろくあきすだて居まさぐるものか
ろがは害いとれげなく如ぐにゐひたろ
ろく風なりまとふひとりくみるぞが
浦ふーれあそびなり或人曰去おいらん
が中例の仮宅ま居ま時モシへ丁い天気
がよくていくがどふも中例いるらんを

ヨトいひーいなりがとれ御なり　トそーと
かくけいせいあどけなさ紙ーやうび
ちべー

○やとひま　宮いふのとれ通女いふ
宮里風　二十二さらやさびらうどのやうふとやーひさ
いとのやうふねさあげいろさみのとるひわど白く
まももわとく数ものとあひとんとまいさ田うい長
じゃうれちりめんのあいびろうどふうらあり紙にこび栗
さや弟りへさ七子赤のうちふあげ白ぐらでこうせこ
味せんとお伺ひひいくのるあくふりそをしんぞう
里衣　ちんさろちりイせん

り里てあくりんてきさナアなんざうめく
さやアげれ温石ろおらアス鍋ろとおりろさ
ろ　おくぬくけびぞうざア　トえんどの火を
ぞねさんちみとぞてくんなんー里　アイ
きんどのすこだ
ろちょうもと里でくぶこのろいめんくぐい
か炭のぶぐいこのひけちいーねくか里ちん
とちぶひんと里それでもまざ続いうけめく

そのくしもやうをとのう
[ら]きもとなんもとかげんげつりいよ[里]コウ
ちゝほゝきもれやう[ら]酒をびよてあや
づんなんせびい[里]やがをいのぜトウそのかた
ぶさとうんせや今年ごがうもえしいりんざ
ひ鯖のあいらさんつて居るぜ蒙螺のつげく
赤辛螺と入てざとかゝもおそれらアらんざ
の料理をんいどもけちをすうせ[ら]よく

いろくかるすといひなんもそよ[ら]そんなら
ゑ分づけと出しんせうゝ居ふあさんそんうゝ
とんてらんなんし[ら]りどぐなゝらまんそこ[里]あけ
てそうこいろいよくつのごやいなんざえざ
かゝらおいつもまんざらでねくおゝしをとく
ををこゝらをめいゑ分づけえぶ血のか
こぐゝ切るぐゝ[ら]サアえをどまんゝ[里]
とんよ見ぐゝりどやアさんねくおゝをとゝふ

やつとやかトゝ云い髪やまてその日の去こみのあと伺
くくとらいされ紙へ去つけて伺まいもつるして
ときとりにゆらゝ一まいづゝよこゝをみらで家よりさすのく
こらゝらゝてんとうげてとりよゆう又つけまへ出もゆり

黒モウ移んしゝらう 白マア子どもとやつく
うんてんなんしゝそゝてつゝいでよけどひんへあを

黒アイトよしゆりく 白コウおめいつゝぢう黒き
てゝゝ八丈とうちぐけむくゝとうちくてん
なんしゝみこせぐれ去んさアナ 里 とうふまげ
てあらア 白フウそれでもまゝゆらげ

なんしたらうぐされるんもぐらうね 里 マアそよ
いゝられ門のこんひらぐ 白 ちゆきゝどやアあつ
せん 里 そんなら此下ゝゝとこうけくいどゆぐ
白 おらアいやそりやア わつちぐこれとみちり
よつゝちりぐ 里 ちゝゝゝにかゝりぐゝこのてあさ
きらアいやならこうちもいやぐのもてぐて
めくゝらやアくぐいナ年塩ぐらとゝてもこん
ゐゝ去ぬぐゝゝられるこうのゝとれつるく 白 云

つるくるくるの酒ざ（トちやうちんへうみとあてて）（糸とかうじて居るうち）（たゞこと盃）
の引かれ居居とでくふこのごろへもかゐ又
かしあけてきて
さぐーすとたなんとよこーなんー（ト引ぬく）
里ちんとんせろくこうわんさよさんさアざ
こんさこいろアゐかぐめれ居じやう寺ざらく
ゐざれでもいくうんちゆわてさなんー里ウ
きこんさこんぢうゐ筒ゲ居代よ出ざ色乃
居ひ白奥のゆうまとい強の和上の面代呂

色とふつられあゆぢらゐくわんーてやん
なんーとれでも居屋づきさんさアゆく
ゐりやアきんくさ里居やうきもきほ
いわりさ大とん寺めくゐ田町ざらうおう
てたよちぐくぐか居こんぢうも居つづけ
おときさでくぶよげできんーさらうちんと
ひげなでさ里ちめくもその面でまげで
きちやアゆ和やーきのわんどんとふりのざ

[illegible]んとでもいひなんしてよろこびこ
といふものごろ 里 なんぢもそぐぢ [illegible] ひざ
をいたゞきてあんしそのかたり小づゝひ
すでゝ乳をかけてくれんさア 里 こいつアわり
ろ 狸ざらんとかりやう [illegible] まてにもあんせう
里 さぞおくぐらうみそのつらでかいてえ
せちやアあねそのの池ざ [illegible] いけぬくちち
ざよ [illegible] 里 コレうせへあまきろ

あへ [illegible] モレ
[illegible] [illegible]
[illegible] なんぢさそてくさそていひなんしの [illegible] へよ
[illegible] あのねそろあぢさんぐねどふそおあー
と一ト[illegible]かしておろんなんなんしあしさおろへ
ヤイスとさ [illegible] ひさしいのんざよろぬくと
いひなんし [illegible] そんなんなそふアイしやうト
里 コウでくぶ火へげおろんさのろせてそりイ

ちぐらとりんとそんちくよせてくりや
ざこーやのちらつこんとこんるゆうぐ炭と
ひゆうでくんさとろつておごるぜ[ら]ロくら
そんくまれさそわぐちらつとだまんなん　ト火ぐ
くまれとそろわくらと[いろ]系　色ろてはりていろ白うそ
ゆりはれそ数おの如く　いもはりひつはちのちそぐ
みぐらていろさ髪見いられさ客のみて数とゆしるよく
そろゆわなり中おそりのかまるとりけくれとまぐんせし
里肌さんでつぶさくなんとそね里客人ら[いろ]アイ
サ[里]かーこら[いろ]そろさおそれんとそねとしちん

とおそんなんー　トかまそろれろくら系　[ろ]おへてん
ぐんーおトはとう　[いろ]同とれはつてぐつと　里ろまぐと
のゆさぐしをあ　おぐー
てくかーてゆり　[いろ]こんやアこちめくぐされひつぐことを
さく役ぐゆつをくこんろさの里むつことぐこどや
アぐぜくせんさんちぐここといてて十ことでろく
ーやとて[ろ]こいつアおろーいまめくのことこん
やつさいーどうさらーじぐ[いろ]うらかーいせゆく
ぐよモしへおりがくふぐぐりイをスかどや

まとやらなれど里りう一ッいきぬくなりざる
かるたハ[いろ]けんらぐとのひなんとのうくさろ
いあくを繞(くぐ)とハ男くどもだまされて笑家(さくひろ)の
柿さおやとみなんーとそろとね[ら]きろくさろて
らげんよろやまやト小ちゃでいろいろとりたるる
ふておりてむさいうろいきろやうもとろわどよいやくとそ
くくろんハやりろー里あのの子れくびもかづのこ
とさやでふくとろふくびひさ[ら]あんまりさるー
なんとろおめくほれてあんとくさ里ろまり

ちぐんくとうぐ伊ろれて居りりんさ[ら]ほ
ふくくりりやアとがとさらおめくもろれて居
なんとぐらう里ろんのほれくさのろれれくのと
土葬(どそう)れ施主(せしゅ)が卵塔場(らんとうば)で小ろ(ここ)とりやアー
め[ら]くれでも糸菊さんよおめくとろも
つてくれろといひんくくさあつるるーひ
のうなのの子が小ろ(こま)ぬ屋の脇(わき)さんといろとー
てろぐらまくさ付(ふき)ハ祭りろんろけあん

かさらさやうなる女郎ハ
紫湯ハ抓あげて【ら】ワららァ抓ひ
こんてをてぐんの客人なぎァとんさるハ
わんせん【里】どゆりでもちぐもれ吉よとぐさせ
た【ら】ありやぐりでちさ色さまぐ小倍の
吋さ【里】それんろりう一まいぐうせら伺ぐ
出ようもちれぬくそれぐりうでもあれく
さでは戸ぐりのハ抓ざいの芋とろう

てはるらげくりしてはさどんうらそれぐら
らくうされぬくそぐさ【ら】ちりイせんコウモウ
むぐとあてちんと移るんせんり【里】ヲやちよ
つとうやもあんのうれハいなんちふぐまぐ若
るくもちぬくはをとらてひてくとうやに
戸絵家の川ちふをちじをぐてさうぐや
つさ【ら】コウおめくらいがくさびをやァ吉ぬ
らわらァのうされくれ移るふよ【里】ホニ二のそれ

らァぐらんとさうぬくてるくぐうづとこんる
ゆうにはよく祝てだんうり居るぜ（これより）
おもて（史の用心さんうしあまをまさせう二うい
の方）
とまわらんしあれまれ夜まわりれ金ぐう
きんくとつけけうつる高ようれへぐてるくけびゆう
ぶのうちもいうなるゆめとむとびしやるれ表のうど
うくわぐるく夜ハ里目をさこいつァうんぐ祝と
かりうくはけうる
もれさ里ぶさうぐよ目ぐさめまぐちやいるそて
ゆるそうぐ里ゆうをちやァらんちきだ（云あく）

まんーくゆうう目とさまうく里ぶにゅうゆるう
ふてくりや里ぶうアイ（トれんぐうらまと出てそさまうくふ
ァんちよ里いく居うぐけびようぐのウコウ
ぶひきんてゆなんーる里べらぐうめいめ
くりびうぐうさひておきれる（トけさ命ーりうひ
安下駄をうってゆーひ中れ下と云かぐーでびうらく
とゆうゆけ云りん坂と出てるれるくおくえんとうくそ
まをりとぬいでゆーうらくハレをりを
ぐうとえまんていうさんようけ出も

評三日こゆえんぐれ宮い如戸とひいていのそ

ぶとのこと色男とさぶあ和尚あぞふもえん
ぶれ長物くら髪のよとふへでかりとこ
一ねのまひとぞとかくるとあどにからんで
さらばあふーてうこをしめくりや格引
のりそふまるこぐるたなり又これより一ぐん
ひくさやくらいあ弟や土弓場なぞを
えんてるのーみとするなり或人曰小こんせ
の如尻い和尚なぞにこうちやふども

のけいこるやふ長やーさの前屋あるこの
ととろぐがうとちるりのなりさきい小
みせる長るとちてのまけをーをなり
たいぐのふさひてとこ屋ーとこ
○こんぬれさま内いい大こん世宿い茶中りの如い
宿年い二十二三ところでーぐーとふこんてくぐやふおりる
まーとこられまうといふこんくうは川油でかるあ中ーぐ
の髪あり書れ田中八ようらるりるーれるこのあるりまこー
油でよぐれさ下長をりれたなり元全の入ーこんりとれ
こぐれひろさをびとあでむまびあ痛のうちふこうちぐこ
なりまちこぐびれてたぐこのこあんどうれらくをを

よんで居るとゆうく来るあひるさ 女郎 そこらあたりのお鼻
いわてはりてそこーいろいあさぐろひが目鼻ぐらよくあそれ
りそろくせいろくあるべちうさんよんでもなきゆめ鼻
ゆやざーにふーそいろろうりのとこそもそうそうそうお
あそめんさにおかわひろぐそこれ鼻髪のうへもよろぐね
うちげこちりめんの紋去ぎりれむくふひこちやちうりんの去
ぐさとーめーる姿ふろとよびいのうこらするゆくと
らうりかさまにぐうつとちのこのいのぐーり
ろさきゆくげあるべこーうりせんとざーたくでくぶい
とていねのこのぐひてことること山 女郎 こうけ
いろざーよ 宿 コレハ山さんきゆく人うへトひゆうぶ
どこれいどゆざ源吾さんでいぐざりませんう 宿
ゆくどりでこしさゆうお夢ざーころうさ

こーく 宿 はめんなさりまーえおひさーぎりで
おざりまーえ変くお出なさるかららんと
おこらせなこちんていそこさりませんでおう
らこでござりまーとホイスあとこさせろ
づくとおさ山りんぐゆうざートこさるひ 宿 イヤ
ちろふちぐろくこなんざぐさのごろとこー
はーめさのさひちゆまーひうあ 宿 する
かぐいづれるアいくくトつきもあひあで
そらこうひとる 女郎 めうときのつ

いさをおのおのモウ何をいひ合てもらられお
うねくひきさげうづらざヨウトいふとしあるよりて又名代の産業へそろそ
さいこ　ほひ　ちろ　ちなて　ひヨ　く　かんを　ゆく　く　トまさら　しそやり
とれよこんぐんへおひとりく　宮　ひごろい連れ
い一切るいのさ　さいこ　コレハさろいモシひ如く元
もをいまんとちこんでござけまるとマアい
つるい気ぜんが妙さそてかの京町い　宮
レイコリヤ　さいこ　ウツツンくく　トあるり　宮　ひ

そべーく湯い　さいこ　昼ごから奥座敷ノ居
つづけでちきよさえましさやがふのもせる宮人
で大のなんじゆうやうんさ　宮　そん等れとを
らね宮ハにとあゆくくらうよ又おのさられも
あるりんざから　さいこ　サアーいとそろさ　ほひなぐ　大き
ふさゆうさねそこでゆさるるとおそふかけ出
ーさこく気ちこのふくといさーやーた
トちれ宮とそろりたもをいふもうりるれざらんよふ
く一分くれろくーそれさくとれいおきよ内くりあんまも

まぜかうらかくぐ奥さて久りゆう ふとんむのうらでは見つて
居る客はつとぐ通たる奥へ さらとおもんゆとぐ〜てく
見るとおもひたりをも いろりとわろーて 性さて 客 ホンニどつてうんれば才年
ぐりでおんさノウひさーぶりぐさぐ トこなぐら
の見入とさー紙入とさぐてゆへさいこい 三ぶとん
今まりく一分ゑとるふく井りひ さいこ さうれハ
ららひおんどうぐさて客のまりとどうねゆうふて
トまきらーよこのわくとむい
のれぐゆぐて鼻紙の見とさぐ〜角ふ 客 これハあぐさ
一べんでとんさゆまんぐりれ大小と出ー
みよこーらくさぐえんゆれソレとふとるとと見ぐ大
の月ぐやこみとるとソレ小れ月ぐや トかうやく

ろかうらこ三さいゆれぐこい
ろうもこそうもつさこそもてむぐわとわさるとと見ひ
さいこ ハイこれハトいろさぐろうらんとなのとこ
に用るゆぐトたみーとまぐんこてくけてこげふく
さうんと見ひーこちもあ客もひさこわくとうとてくるの
ぐひこそうあひろりよたあてぐち
ろ鬼も居とうれ茶と ちや 客 アく彩ぐろう
ぐトえて小べんよりうりふかぐちぐひホイこれハ
してこうりたみのしゆトとあけ
そこう トえ家へこのりつしあのたんぐりとるぐらた
こあくびみ六十夜見のうらはてんでゆくはうるゆうく
らうくとこてこりぐどうんぐどうつこの言ねハ今まくとる

おくいそうひでこそかうろえさう夜具ひきさらかうりねさかり
しそのれバおのおかとこえてむかしくむかふのざしきへえ
いろはかめいさえて皿のごとくおりねいとふしいは名代の客
あるとこえふりうせとくさうちやふいふてあいふてとむかの
うらふいそんと女郎ふてえろとおんべんもかくしておもうち
又ゆめしとこしてしゆうドときらでもとわくるまへびろく
つもしてえねさかりまそれバけふいりの事て油とつので切
のおやてさえられどもも⊕おきさて帯ときあるとし屏風ひ
きかけてこれバゑさせのよふどれさかり紬一まいこさ 新
そういろの所ふくまて枕の引出しとまくらふしさと
こんてそれもそろし縮のこぶすえとところしきゆうかれそ
ありとうこながらこそいるくむてみるとかの客つめさへ
こさせるれ出そで八ツ口の所 客 コレく おきそてくれく
ようさの下とつられるから
新造 うゝそ ウゝ うぶれだもそろねへウゝ フウ 春六どん

ようかせへウゝ フウスウ 客 コレく それぞ羽織(もさうり)と
出しそくれく 新 ぬりくさが付 月とひつさ ヲヤ源(げん)さんどうえ
お出たんとえ 客 ころひ出しておれハあうえる 新 まだ
うらしいまぶ八ツでござんすとハ 客 ウン ニヤたん
時でもよいへうつるすくに出してくれろ 新 マア おや
すらたんし遊(え)しやとおもふられんそれへ十二匹とりひ
目どこそうくかそ帯めらけさとひきさむそり子がくら
ららく出おひろさの女郎へうくとおもうせまあく客れ
ドえんさんとその引出しとさぶしてえとりを出し身
づくろひしそうけ出そてむかふへおひろさの女郎名代の座

おくらはやうアんと出ふしひ
りのくちうれ手ぬぐいまアるんぐ今
ぐんぐん宮やうなしいおどれがえんくるるどやか
いかくしひ夢めぐひひんがあるがよふいくね
うねがやうあくんくさ女ふいよくちの表
アアワくひりのよくたりのとおろさせろちや
屋のくくとまんてんわぬうくるくむるる如
それぐんくても用ぐうくふぐぐんとくろいえ
らくらやうさ宮用ひもへちまもいくねるん

でもうくをれがおしでとれがかるれだが
なんくのかりのざくくとくるーくとくらうトよひらの
むーやくーやくちくとくるる如マアおろにしてくん
なんくー外のくを毋く流がやうまーうおぐぐんを
用がおんなんをあらおぐんぐやうふくくーヤン
をからマアちくんくとれ表へおなんくー宮
アくおいひおんをくらマアいマアおなんくーヨトおりむくい
ふひくぐぐんくてやさ
表の中へをくくせ如ちくんくるくろひ魚ぐヨ

トゆんこうこうこうひたをうよゆるさんたまんてあさ
をぬげせてかうこもかし

客 イヤくちまんてひんならぬくどうでも
ちらゆやなこんね立 客 ひさマアゆメなんし
ちうもこうんちやなんとといひしこうおまんい客
とんゆひせんはとあとはあれてあひん
といひしさどやなひく トいひなぐらふところ
ぬぐる 客 伝のもこうんくうるくこんるをでい
くのどやあい 女 ちらのこうゆぐあるならら

一トゆうこうけといってこうせてかせこんゆん
せんへいろそ他人ぐまいヨトこんぐらく又 客 イヤく
くうこうてんれいやどやくく 女 名代の客一中代
くうこうてぬしくゆんこうこうこうゆるふ
と思って居さつトぐんいさもこんなんせん
でやトこうの客の客 イヤサうこうゆやるんく
常とく 女 そのんいさとむまこんこうなぜ男い
そんなぶをづよひりのざノウトこうぎさ

宮イやくどふあんてもゆるく（トくちでいいくどりくちやドゆうよ）
ある 東 ヲくちうい人ぎらしざョウ（トきうりとぎきう）
きそのまくよこ 宮 コレいやらしひるよりてくれ
ふきーこくを
うつらみやワるひ 東 それわどうりさいく
ふくひノウ（トぎたつふさまで）くちとうりロよロ 宮 ヲいてくべくら
びうめサアそんあうあれどふきる（トのうくなる）
評遣 ゆうくちづまくさと思ひヨヤだうらしひ
びきうぶさひさまいー
今れさうざでゆびの縁（とおてくさそふざ

評 ニ日は夜の名代の宿こゞゆうりん
ゆも色男なりんとこんゆれどもたふなら
むぞ三舎目の宿（くさいめ）てぶ男なり去れども
こちられさむらい宿とべくうとくんて
居る由くまづ三舎めけ宿をつくあも
ちやゝ赤花（ととくさ）の三あもきあてきる由くた
の平氣（ひさ）なりはうちと一あいゆりくまの附
ぐりとくくー二分ハ小万（たまの）屋（ちきん）の内金ふ

ゑこーニ糸ハかーなやれたるひ一分ハ
あんまの仏づけとゝ仏のうちでハさん才
ゑるがら他人ゲ母ーいとハまれあること
とべうんしんなりさごめてかのぞんよか
つさらをいてゑんをるるゆるべーいろさ
いんをころりとさせるふうゆてなろ
く色男にゐれるたちでかーゑるよ
るふもさごゑたごんて出とごるゑ

二ろいがうでハゆくまるたちなりとゆ云
ゆくんさそごろーにしてころちの答ゆる
くゑよきるゆありむるふづくまんーてい
うるさゑやつなるべー或人曰ゆゆふハハ
数の白むくも移で又何ふう源てこゑ
くれをるたちごこちごひハかーゑ裏
までハゆうねくいゆゑ宮ハいろでもゆくのく
或人又曰ゆ宮ハげいーやゲこ笠せんとひく

しかるうどきさせるで茶うんをたくく人
たりしくく

○そりくくとする〻中三の女郎茶やの三ちの色男よりあるこちら

右草稿出来ありしこの人とも事繁りれを
様数の多くなりうんと廢ひ筆を著く
追而後編に著べし

○真の紅世界い大うせ女房ふるあらふて
以女郎表うしうの客

客看 ちうう 合人 湯をちまひとうく上二ちいうと

かれうりくしい天くれのよい女中三うて歳ハサ二ちうて
日の長てけのうえ女郎表三ちと 亭 ふかちあしくふかちうひも
せぶとれくされ桜のまくれわうのうられとひさ 客 ちいこ
さくくしちうさくとして茶のゆふれて長る 客 十三にを
とーふがこたりしているこのあいこ男 客 メリヤス 上畧
下長のまくこのうさふかさひさくくある

うつくくとおうる日のめうくてあそぶ
山里ヒとひさ のくとと ヤン ヤア 客 サア一ツのくとか 客
チトこいわくさく 客 マアくくさやうあらトこ三味せんを
かくて長ふがう 茶や里 つぐ 客 コフ出て根今私ど
さうぐさとちう 客 コフ出て根今私ど
くいくく毘沙門様の祭りにくけくよ

女げいしゃ公家の屋敷門をたたんとうろうして紙をもち
すりもちをもちたりこれ扇通いぶたんどのもと 茶や男 宿
人のあくサ げい フウ ぶいと 盃台のよくまーたちとて
こうろアいくあざ 云ち通言なり げい 何さのん
なしいげうろふござりやもていろてくいの糸のを
ちさトはちちちはぐはうるざん茶やの男をよ
び出をこれいはいーやふむらいのうんうさのすり
げい ちうぬやり をして居る 茶や男 ちやくに のものをもウけく
しませうら 宿 小声 ウ で けくーや 茶 ようさふ
モウ 糸とちまくとちこんはやちやう ぶいと

チト幕ふーてもようらう トこれふーちくく
糸パッちり 金ーこ味せんのこの
とちれる げい モシ通ふ糸でござりまちとね
トこんがら一トこの糸とゆるめてちまい笹を
らうちつき出をはらかッ六ッきてせりふをトド げいと
さやうふらはさがんよふ ぶいと ちらう おいちんお
大事 ぐードにな出くーよ 茶 おいちんへかのぬげとん
ざよく債ちまーちよトこれはちざかのちんとよッ
ヤやちやう 茶 フウ トウ ちりうさ 宿 こんかはちらう
く トちるを ぶいと ハテ こくちちぬと金さぐ

茶 ヨット上こへうさ付て金中ーさ ふんこ これい
おせつと トこうく ゆう中屋敷ととこび 表 髪を毛
屋風のそとへすぐてとく 筆立
まさつけ大ゲのこぢんーこせの布子の袖あのよー
さやうよどれるを袖を常へさこかうぞの
禿とくる なんざといくいうちやつてあるん
ひかぐく
せへこんさのせるゆやアなうねへいトきる 客
松垂いて所へついでくりやトお茶こん 茶 酒い
よーるんーひさーいりんざよ 客 うちやつ
てとりく吞てくうう吞いうぐさうあくた

ぐや 禿 およーあんしおいうんの出と
つげよ 茶 そんあうおーなんー とうしと
ざとこぐれ 客 のこうと 茶 きぜるてうちおこと
るやどつぐ よこると もあぐりの中へこぐれる
客 袖で灰をあふ おへ出へ乳ちぐぐトふさくに
ぎたうぐう みまい出を
禿 それごらうどいートこちを 女郎 これも中
ふくおうう 三ようせ
ぐれのむくを出分ドまいを
えてありへたくれ 白粉をこちこと
ろいなーーやうどをま モシへうけこあれがはとう
ぐんあけてうわを出ー
こうぐさそふでござんさねおさのーみざね

うらやましいヨウ　ト云ふからそいつ花
天気のいゝふ居つぶけも気ちがひのさまで
ぬく　ありがたい　そこ　がちんどつざんをとつかとつけぬ
て居る女　京よりも　女　ふとこころうらまコリヤア　ムうら
里ごねねしやアこせく　ありがたい　いくらふい
出番の気でやくさく　女　ちらんがとう
しろをむひておうせろんしぬしあやアま
がらが似合よ

ト云ふの枕の下ろうをとさいつちや沢月ろう月
そこ男のろうひろくろひつさ　あとろう
れ物ごろんせんろういつを若旁ざよろくぶ
ようけヨヤあつうあしいおとなんー　ト男の常とそこ
のそとくろり出しぶんも常と　それ六ツ乃鐘
ときろうざとくく合せて高ろう
ゴヲン　作者京傳曰　ちくしやうめる

評　三日傾城よ真ごあつて運のつき右
の客れやうよあつて居てい病出歯のい
くむやうにどこともかーに外代いろう

ふぬぐ〜ひ子よりなりてもはゝ間舞鼓と
よぶいさ子ゲ中三賈の孫なり志ゝ〜茶
屋ハちゝくと名ふ屋〜とふなれいこゞ
ひの中よハこゝ(傍)もあくなりゑもゐゝ合
のワるゲみあゞ(返)ゑ男ゐゝたゝゝ出てよ
こゝとゑゝうよなゝ いゝとゝくゝ者の
好ゝ吟ゑ物も好ゝよゝゝその男れ癖を
ゞゝゝゝるゝのなゝ又いゝれ者ゞれ不

勒涙くゝ切てゝまひ孫よハ獨居と成
平ひよ子ばゝまりゝこゝゝ多級老板や
債業ゞ書て呉ゝんゝれゞあゝを却りひハ
塔り世界よハ女も男もゝゝやゝゝゝ乳
よなり愚痴よばゝりなりて人ゞゝり
服ゞゝて来くけゝく面白く無〜
女帝れ方ゝゝもゝゝと閉よも居
つゝなんゝゝゞゝ呉ゝんゝ者乃

方うらも陸奥かれ宿をたちあさせる
中うにをとあうえくゆりてあぞあつ
て如屏も吸しさ習ハみさひこぐ飯
さへも喰つぶて役ゐくともひくなり宿
もうちへうつて持佛の阿弥陀
さあまたげ如屏れ新まえ申るものも
何し邪うちうんてハ馬庶らしくえ
中まどをの引まなりてハりつとも

四十一

珍屏もなつうぐさう傾城された捨ゲ
さえい氏乃の迷ひなりと双岡乃
ちれりのもをしふなりぞや

傾城買四十八手畢

予誹よりうくしく作れる
世小冊を速終の原
時あとをうよりうみ
くるまくてくまきの
あり水未
京傳
つくめるの
扇一哉

自跋

東坡先生曰。男女乃媾ハ。
生ぶしか奥義を抱て冥加と。
可畏とあり。姉妹妓も。寂寞と
思て憂艶。粧飾も繰返
恵皆自嶽乃戯也

雲言葉はなるほどいかに金子高慢あるて。夕ふ是ハ豆腐なるかゆ。荘子が枕とのあるとも。豆腐と乃紅葉なこのふたりきやさい猫をもてハあるとと笑ひ毛男も

有。乃用ゐんとすれ。

仕方をもてもみ女男

婚姻寸逆ふ

まとふ。ふ。ふ。

つい。一言乃妄作ゆゑ

悟ゆのたるなり

大磯もやとり

遊妓早學文（けいせいいとやぐもん）

京傳著